

令和元年5月29日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K11915

研究課題名(和文) 占領期GHQ/SCAPの看護改革と布教活動の関連性に迫る歴史的研究

研究課題名(英文) Study of Nursing revolution and missionary activities in Japan after the second World War

研究代表者

佐藤 公美子 (Sato, Kumiko)

札幌医科大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：30324213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は看護改革を主導したGHQ、公衆衛生局(以下PHW)看護課と宗教改革を実施した情報教育局(以下CIE)宗教課との関連性を探究し、マッカーサー元帥が強行に指示したキリスト教への布教運動が看護政策に与えた影響を明らかにすることである。研究方法は歴史的編集法とした。結果、分析資料やオーラルインタビューを通して、PHWスタッフの宗教に関する活動は公的ではなかったことが推察できた。GHQ、PHW看護課に属するスタッフやその家族が日本の宗教的、教育的、医療・社会福祉的な施設に対して与えた貢献について探究するための、次なる研究の方向性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第二次世界大戦後の日本の看護はGHQ/SCAPの看護改革の影響を受け、アメリカ式の看護システムを取り入れ歩んできた。わが国の看護における礎となったGHQ/SCAPによって、日本の看護の何が変化したのか、また、それによって日本の看護の何が失われ、何を得たのかを明らかにすることは看護学の発展において決して無駄ではないと思われる。

研究成果の概要(英文)：The research objective of the authors is to elucidate details of the nursing reform conducted by the General Headquarters (GHQ), Supreme Commander for the Allied Power (SCAP). For this purpose, we explored the relationship between GHQ/SCAP, and the Nursing Affairs Division of the Public Health and Welfare Division (PHW), which initiated the nursing reform, and the Civil Information and Education Section, Religious Division, which conducted religious reformation activities (propagation), and we further explored the influence on nursing policies due to the missionary work to spread Christianity directed by Gen. Douglas MacArthur. We employed a method of historical editing. The present study suggests a direction for further research that aims to explore the contribution of the staff of GHQ and PHW (especially the Nursing Affairs Division) and their families to religious, educational, medical, and social welfare facilities in Japan.

研究分野：基礎看護学

キーワード：GHQ/SCAP 占領改革 看護改革 布教活動 看護歴史学

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦後の日本の看護は、GHQ / SCAP の看護改革の影響を受け、アメリカ式の看護システムを取り入れ歩んできた。わが国の看護における礎となった GHQ / SCAP によって、日本の看護の何が変化したのか、また、それによって日本の看護の何が失われ、何を得たのかを明らかにすることは看護学の発展において決して無駄ではないと思われる。ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアでは、信仰に基づく看護活動が今日の看護を進展させてきた歴史がある。

筆者らは、これまで看護の職業的発展と宗教の関連に注目してイギリスにおける近代看護教育の創始（1860）からアメリカ北太平洋地区を起点とした看護教育制度の形成（1873）や、アメリカ全土に広がる看護訓練学校（Training School for Nurses）の設立を明らかにしてきた。結果、アメリカ近代の看護教育形成過程の背景には、戦争や経済発展による急激な社会変動、国民の価値観の変換、女性の社会進出と地位・役割の変化が影響していることを実証してきた。また、キリスト教の女性奉仕によるマザーハウスでの「チャリティ事業（1830～）」が看護の職業化の形成に関わった事実を述べてきた。アメリカ看護の歴史を紐解くと、チャリティ事業団やキリスト教修道会が病院の設立と看護婦養成を行ってきた事実に行きつく。また、日本の看護婦養成の開始（1880年代）においてもアメリカ女性宣教師によるキリスト教伝道事業が関わっており、キリスト教と看護の関連性を切り離して考えることはできないと思われた。さらに、「Charity（慈善）」概念の理解は看護の発展に不可欠である。しかし、これまで筆者らは近代アメリカ創始期を明らかにしたに過ぎず、日本の近代から現代の信仰と看護の関係性には至っていない。昨今、GHQ / SCAP マッカーサー元帥の占領目的はキリスト教への布教であったと「日本占領と宗教改革」（岡崎;201）により実証された。本研究課題もまた占領期研究の関心テーマであり、保健医療分野の実証が急がれている。

第二次世界大戦後、ダグラス・マッカーサー元帥（Gen. Douglas MacArthur）率いる連合国軍最高司令官総司令部（General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, 以下 GHQ）は対日占領改革において「日本に精神革命を起こすために宗教と教育を利用した」（岡崎;2012）とある。さらに「マッカーサー元帥にとって民主主義とキリスト教（プロテスタント派）への改宗は一心同体で、日本にキリスト教を布教することは占領改革のもう一つの目的であった」とも述べられている。筆者らは、これまで GHQ / 公衆衛生福祉局（Public Health and Welfare, 以下 PHW）の看護政策の実施過程を論証してきたが、布教活動もまた来日の使命であったという視座から PHW の活動を解明してはいない。しかし、PHW 看護課の初代課長グレース・エリザベス・オルト（Grace Elizabeth Alt）や二代目課長ヴァージニア・オルソン（Virginia M Ohlson）、看護課スタッフのエニド・マチソン（Enid Mathison）らは、所属教団は違ったが熱心なキリスト教信者であったことは先行研究で明らかである。

近代アメリカ看護の創始を探究する研究（佐藤 2012 2015）において、19世紀から20世紀にかけてアメリカ看護を担ったものには、アイルランドやイギリスからの移民が多かった事実を知り得た。アメリカへの移住はキリスト教の信仰を貫くためであったが、教会が行うチャリティ活動や修道女としての活動が、やがてアメリカ看護の職業化に大きく関わったことを探究

した。GHQ / SCAP,特に PHW の彼女らの活動を再度、紐解いて日本の看護職への啓蒙活動の内容に信仰を思わせるような語りや指導内容、看護活動への示唆があったかを探究していくこととした。

2. 研究の目的

本研究では、看護改革を推進した人物の背景、つまり信仰と活動内容に着目して、アメリカの看護者による看護改革実施の別の様相を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は以下の方法で進めた。

(1)アメリカ側の歴史編集：収集済みの GHQ / SCAP Records (1945-1952) のうち、PHW Sheets や CHS Sheets と Weekly Bulletin の分析を行った。一次史料として、Weekly Bulletin Public Health and Welfare Section, GHQ, SCAP ” 14. October 1945 31. December 1949 (PHW sheets 05183 - 05199) である。

(2)日本側の歴史編集：書籍、資料、文書など、地方に所蔵する一次史料及び二次資料を収集し分析した。二次資料として、女性新聞(The woman ' s press), 1946.3.1 - 1950.12.21 発刊のうち、欠号 (85 , 157 , 158 号) を除いた 1948.2.11 (第 60 号) - 1950.12.21 (第 158 号) を分析した。看護改革や宗教改革に関連する書籍、論文を収集し、歴史的事実との確認のために使用した。

(3)AAHN (アメリカ看護歴史学会) に参加及び発表し、AAHN メンバーと意見の交換を行った。

(4)インタビュー ; Dr. Barbara (Virginia University)

(5)倫理的配慮は、一次史料 (Weekly Bulletin Public Health and Welfare Section) は 国立国会図書館憲政資料室所蔵の GHQ / SCAP Records であり、杉田聡 (大分大学) により電子ファイル化して復刻されたものである。著作権作成者により使用許可を得た。二次資料は国立国会図書館所蔵の公開資料である。さらに、人物、場所などを記載する際は個人情報保護に努めたうえで使用することを厳守した。

4. 研究成果

PHW 看護課の活動資料として選択した「(1) Weekly Bulletin」は、PHW (中央本部) が地方に駐留する府県軍政部に宛てた PHW 内の活動報告や連絡事項を示した週報である。この全文書を対象に Charity, Church, Christian Religion などの keywords 検索を行ったが、これらの単語を含む文章は見当たらなかった。さらに、活動内容を全解読したが宗教関連の記述は一切なかった。つまり、PHW スタッフの宗教に関する活動は公的ではなかったと一次史料からは推察できた。二つめに選択した「(2) 女性新聞」は、日本基督教女子青年会 (Young Men's Christian Association, 以下 YMCA) が出版した新聞である。YMCA 総主事ラッセル・ダーギン (Russel L. Durgin) は GHQ 顧問として来日 (1945.10.22) し、GHQ と YMCA は協力関係にあった。そこで女性新聞の掲載記事を概観すると、マッカーサー元帥の招聘に応じて

来日する宣教師のことや、民間情報教育局 (Civil Information and Education Section, 以下 CIE) 宗教課職員や府県軍政部の要員によるキリスト教の講演報告, LALA 物資の配給に関することが記載されていたものの、主には婦人と青少年の教育や労働に関するものであった。看護関連の記事は、甲種看護婦試験の開催案内や看護職による看護課発足、看護労働に関する事項が見られた。また、YMCA と CIE の関係性を示唆する記事も伺えたが、PHW 看護課スタッフの活動記事は見当たらなかった。また、AAHN における国際学会での発表とディスカッション、さらに Dr. Barbara らとのインタビューやメール会議を通して、次のような考察を行った。

1945 年 11 月、GHQ / CIE 組織に宗教課が設置された。対日占領改革の方針に則って、宗教課は政教分離の原則を守るためマッカーサーが強烈に進めようとした日本のキリスト教化に強く抵抗したと言われる。また、キリスト教宣教師たちの生活は GHQ の活動とはほとんど無関係であったことも伺えた。しかしながら、PHW 看護課のみならず GHQ スタッフの多数がキリスト教信者である事実は見逃せない。GHQ は、一方ではキリスト教化を勧め、他方では「信教の自由」を謳い、日本での政教分離の確立を目指していた。CIE 宗教課はこの矛盾に気づきながら宗教政策を展開していた。同様に、PHW 看護課も公式に看護政策と布教活動を関連させて公的に行うことは極力控えていたと考えられる。

筆者らはマッカーサー元帥の指示のもと、PHW 看護課の活動の一端にキリスト教団での講演やキリスト教と看護思想を関連させた話題提供があったと考えていたが、分析史料からは実証できなかった。また、日本をキリスト教化する公式な文書は表面的には存在せず、容易に史料を見出だすことは困難であることが推察された。本研究結果より、GHQ、PHW 看護課に属するスタッフやその家族が日本の宗教的、教育的、医療・社会福祉的な施設に対して与えた貢献について探究するための次なる研究の方向性を示唆した。

参考文献

- 1) 岡崎匡史：日本占領と宗教改革，学術出版会，2012
- 2) レイ・A・ムーア：天皇がバイブルを読んだ日；神の兵士 日本をキリスト教国にするマッカーサーの試み (Soldier of God: MacArthur's Attempt to Christianize Japan)，講談社，14-58，1982
- 3) ライダー島崎玲子，大石杉乃：戦後日本の看護改革，日本看護協会出版会，2003
- 4) 大石杉乃：バージニア・オルソン物語，原書房，2004
- 5) 佐藤公美子，奥宮暁子他：近代アメリカ看護教育の形成とチャリティ事業の関連，日本看護歴史学会誌，27(27)，76-83，2014
- 6) 平尾真知子：日本における看護婦養成の開始とアメリカ女性宣教師の役割，山梨県立看護大学紀要 1(1)，17-27，1999
- 7) 山本捷子：看護教育とキリスト教の関連についての歴史的考察 - 我が国の近代看護教育の草創期から現代まで - ，福岡女学院看護大学紀要 1，7-13，2010

5 . 主な発表論文等
(研究代表者は下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 7 件)

Yuko Kawakami, Kumiko Sato, Healthcare and Poverty in Urban Japan 1935-1941, 21st
Southern Association for the History of Medicine and Science, 2019

Yuko Kawakami, Early Stages of Public Health Nursing in Japan: Expansion of Health
Centers Before and During World War II , American Association for the History of
Nursing 35th Annual Conference, 2018

Yuko Kawakami, Creation of Arena for Elderly Welfare in Japanese Agricultural
Cooperative, 20th Congress of the International Association of Rural Health and
Medicine, 2018

Kumiko Sato, Yuko Kawakami, Nursing Reform and Missionary Activities in Japan after
the second World War, 1945-1951, 34th Annual AAHN Nursing & Health Care History
Conference, 2017

Yuko Kawakami, The role of Rural social work in wartime Japan in the Development of
Public Health Nursing, 34th Annual AAHN Nursing & Health Care History Conference, 2017

Kumiko Sato, Yuko Kawakami, Hospital Management Reform by GHQ/SCAP in Occupied
Japan, 33th Annual AAHN Nursing & Health Care History Conference , 2016

佐藤公美子, 川上裕子, 占領下における GHQ / PHW の看護政策実施過程と布教活動との関連
性の探究 日本看護歴史学会第 31 回学術集会, 2017

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 川上 裕子

ローマ字氏名 : Yuko Kawakami

所属研究機関名 : 亀田医療大学

部局名 : 看護学部

職名 : 講師

研究者番号 : 20612196